

研究のまとめ

1 教科領域研究テーマ

生活の中の課題を見付け、解決する力の育成
－技術の見方・考え方を働かせた課題設定力を育む学習過程－

2 成果（○）と課題（●）

(1) 3年間を見通した学習活動の改善

- 全学年の分野ごとにパフォーマンス課題を実施し、生徒自らが設定した課題を解決するためのアプローチを考え、解決に向けて活動している。今回、3年生の統合的な問題解決に焦点を当てて取り組んだことで、3年間を見通した学習活動の改善の重要性を改めて感じた。
- 統合的な問題解決に向けて、技術科の授業の中でもカリキュラムマネジメントを行うことで、見出すことのできる問題や設定する課題のレベルが高くなると考える。
- 1年生の最初に行った生物育成の技術を3年生で活用するとなると、これまで以上にOPPシートや、ワークシートなどの学びの蓄積を意識して残させておく必要がある。
- パフォーマンス課題は、意識的に自ら課題を設定して行うものになっているが、自ら課題を設定する力がなかなか身に付かないことを感じている。生活の中での活用を目指すためには、場面が変わったり、条件が変わったりしたときに、どのように考えて実行するのかを考えられる力が必要であり、それを身に付けるための研究を進める必要がある。

(2) 適切な評価による、生徒のメタ認知力の育成

- 生徒のメタ認知の育成に向けて、OPPシートや班内での作品についての発表会や、相互評価などを取り入れることを意識して授業を行うことができた。また、発表会や作品評価の視点を示すことで、技術の視点について意識させることができた。
- OPPシートやワークシートなどをデジタル化したことで、文字の記入だけでなく写真や動画を利用できるようになり、効率的に知識や学びを残すことができるようになった。
- OPPシートに記入させることで、それぞれの生徒が学びについて記録を残すことは意識できた。今後は、生徒の理解度や達成度を見取る方法や、コメントによるやり取りなどを行うことによって、更なる活用方法を探る必要がある。
- メタ認知力が向上したのかどうかの見取りの方法を確立していく必要がある。

3 次年度に向けて

今年度、統合的な課題解決に焦点を当てて研究を行った。そこで改めて課題であると感じたことが三つある。

一つ目が、「生徒の課題設定力」についてである。技術科では、問題を見だし課題を設定し、解決に向けて取り組む活動をこれまでも行ってきたが、3年生の最後の授業後にとったアンケートでも、課題の設定に苦手意識を持っている生徒が4割いた。自らが課題意識を持ち、その解決に向けて責任を持って行動する力がエージェンシーであり、これからの時代を生きる上で必要な力である。ここに苦手意識を持たないような生徒を育てる方法を研究していく必要がある。

二つ目が、「メタ認知力の向上」についてである。技術の授業は、1，2年生時には週1回、3年生は隔週でしか授業がない。前の授業時間に何を学んだのか、どのようなことを考えたのか、振り返り、思いだしながら、過去の学びを授業に活用できたことは有用であった。OPPシートやワークシートを工夫することで、よりよい活用法について考えていきたい。また、それは、単に授業の効率化であり、より汎用的なメタ認知力の向上に繋がるのかについては、研究の余地があると考えます。

3点目が、「統合的な問題解決の題材」についてである。今年度は、アクアポニックスを題材として扱った。統合的な問題解決の題材としての可能性は感じたが、隔週で行われる授業であることや生物を扱うことを考慮して、課題の設定や設備などをどこまで準備し、どこまでを生徒主体で実行させるべきかについて検討が必要であると感じた。